

男子部

この 1 年間の取り組みについて

男子部部長 佐藤史伸

2023 年度は、5 月に新型コロナウイルスが 5 類感染症となり、長らくできなかった活動が、少しずつ再開された。感染対策など安全な学校生活を過ごすことに心をつかいながら、生徒たちの自主性と創造性を尊重しつつ、繋がりを大切にする対面による学びが至るところでデザインされ、安心して成長できる環境が提供された。

1. 最初に

2020 年度から始まった新型コロナウイルスによる影響は、2021 年度、2022 年度にも続いたが、2023 年度には多くの活動が再開され、日常を取り戻すための努力が行われた。前年度までの経験を踏まえ、感染予防と学びのバランスが取れた生徒による自治活動が行われた。遠足、文化祭、体操会、クリスマスの行事など、生徒たちが創造する力を発揮することができた。また夏休みのプロジェクトベースの活動、海外への研修旅行、男女共修で行った広島研修旅行など学外での教育活動も行うことができ、多様な学びの機会が生徒たちの成長につながったように思う。

2. 中等科・高等科の生活について

【授業】

2023 年度の授業は、コロナ禍で得られたオンライン学習の経験を活かしつつ、対面授業が中心に戻った。授業は、生徒たちが自主的に学びを深める場として位置づけられた。

共生学、探求の時間など、プロジェクト学習が行われ、生徒たちは自らテーマを選び、調査・分析・実地による学びそして多様な方法で発表を行った。この活動を通じて、学問的な探究心や問題解決能力が育まれた。また、地域社会との連携も意識され、地域の課題解決に取り組むことで、生徒たちは実社会とのつながりを実感した。また、自然との共生や持続可能な社会づくりの重要性を知る機会ともなった。

【礼拝】

2023 年度も、礼拝は、日々の生活において大切な役割を果たした。自由学園の礼拝は、生活に根ざした話が多

い。目に見えない絶対的な力を信じ、「自分の在る」を意識できる大切な場である。生徒たちが内省し、自らの生き方を見つめ直す場であり、精神的な成長を促す機会でもある。礼拝の最後の各学年の日番による礼拝の感想は、司会者と生徒、生徒と生徒の気持ちの往還の場でもあり、大変刺激的な場である。礼拝を通じて、自分を愛すること、感謝や謙虚さ、他者への思いやりを学ぶ機会となっている。

5 月以降の礼拝は、全生徒が一堂に会する形で行われた。讃美歌を歌うことができ、マスクの着用をしないお互いの顔を見ながらの礼拝の場は、コミュニティの一体感を深める重要な機会となった。

【食事】

食事の時間もまた、自由学園において重要な学びの場として位置づけられている。2023 年度の 5 月からは、感染予防策を継続しつつ、全学年が一堂に会しての食事が再開された。

各学年の生徒が 1 テーブルを囲むスタイルを経験していない高 1 までの生徒は、上級生と一緒にいることに緊張した面持ちであったが、すぐに打ち解け会話が弾むようになっていった。

また、有機食材を使用した食事をいただく日を設けた。生産者からのメッセージを伺ったり、現地を訪問したり、学びとして実践したり、健康や環境保全、持続可能な農業について意識することにつながった。今後もこの学びは続けていきたいと思っている。

とくに、生産過程を実践することで、食に対する意識が高まり、持続可能な食生活につながっていくと思う。地域と繋がり、地域経済の活性化にも寄与したいと夢は広がる。さらに食卓に豊かさをもたらしたいと思っている。

【寮生活】

寮生活は、生徒たちの自主性と協調性を育む重要な場である。2023 年度の寮生活では、コロナ禍を経て、より安全で快適な環境が求められた。

寮生活は、学年やクラスを超えた交流が日常的に行われる場であり、先輩と後輩の関係が大切にされている。今年度の最上級生である高等科 3 年生が、丁寧に下級生とくに新入生である中等科 1 年生に関わっていた。一人ひとりの違いを尊重し、同じことができることを第一義とせず、その人なりに自分の属する団体(社会)に貢献する、力を出すことを根拠を持って説明し、共に歩む姿があった。

2023 年度も、上級生が下級生を支える姿勢が顕著であり、寮生活を通じて生徒たちは互いに助け合う精神を育んだ。

感染者が出た場合の各家庭との連携は、今年度もよりよく継続された。

生徒たちは自分たちの生活を支えるための実践的なスキルを身につけ、他者への責任感や協力の重要性、思いやる心を育むことを学んでいる。

3. さいごに

現在を「信頼」関係の中で積み重ねられると、「感謝」につながることを教えてくれた 1 年であった。自治生活の中心である委員会活動は、高等科 3 年生を中心に、1 期「軸を定める」、2 期「とびこむ」、3 期「手をつなぐ」、4 期「今を熱く」、5 期「日々の積み重ね」、6 期「我らは進む」と目標を決め、真摯に自治生活を創造してくれた。その歩みに通底しているものは、あたたかい社会を目指し、つながりを大切にしたいという思いと、一人ひとりの違いを認め、その人らしく生きるということであった。そのことを一年間ブレずにやり抜いてくれたことは、素晴らしいことであったと思う。もちろんうまくいかないこともあったが、男子部に自由学園に向き合ってくれたことに感謝する。そして、団体生活をする上では、属する団体(社会)に力をその人なりに出さなくては社会をより良くすることにはならないことも、いろいろな場面で伝え、姿で見せてくれた。

これからも、生徒を真ん中に置いて、保護者の皆様と私たち教職員が、また、自由学園に連なる大人たちが「信頼」を持って進んでいきたいと思っている。共学化しても愛に溢れるあたたかい社会を創造していきたい。